

## 5. 結核の消毒法

結核は、感染症法における二類感染症で、結核菌による慢性の肉芽腫性炎症を主体とする感染症である。多くは呼吸器感染症（肺結核）だが、血行性播種等により全身の臓器に感染しうる。人獣共通感染症だが、主要な感染源はヒトである。<sup>1)</sup>

### 【感染経路】

主に活動性結核患者から飛沫あるいは空気感染する。高濃度の結核菌に直接接触すると皮膚からも感染（接触感染）しうる。<sup>1)</sup>

結核の診断前に気管支鏡検査、呼吸機能検査、吸入等を行うと感染リスクが高まるので、常に結核を疑い、治療後に排菌がなくなってから必要な検査を行う。<sup>2)</sup>

### 【消毒法】（表）

高濃度の結核菌に汚染されていない限り、原則として器具等や環境の消毒は必要ない。<sup>1)</sup>しかし、空気の舞い上がり等を考慮すると、環境から感染する可能性はあり、排菌がある場合には（治療開始後14日まで）、環境消毒も必要である。<sup>3)</sup>活動性結核患者に直接使用した器具（気管支内視鏡や手術器具等）は、消毒を行う。<sup>1)</sup>

高水準消毒薬（グルタラール、フタラール、過酢酸）や、中水準消毒薬（次亜塩素酸ナトリウム、アルコール系（消毒用エタノール等）、ポビドンヨード）および低水準消毒薬の両性界面活性剤（アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩）が有効である。<sup>3)</sup>結核菌は一般細菌と異なり、菌体がろう質で覆われているので、消毒薬に抵抗性を示す。このろう質を通過できないクロルヘキシジングルコン酸塩やベンザルコニウム塩化物は無効である。<sup>4)</sup>

表 結核菌の消毒法

対象物	消毒法 <sup>※1</sup>
内視鏡 <sup>2)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2～3%グルタラルールや0.55%フタラルールに10分間浸漬。</li> <li>・ 0.3%過酢酸に5分間浸漬。</li> </ul>
呼吸器関連の器具 <sup>2)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウォッシャーディスインフェクター<sup>※2</sup> (80℃・3分間等)。</li> <li>・ 0.01～0.02%次亜塩素酸ナトリウムに30～60分間浸漬。</li> </ul>
床頭台 オーバーテーブル <sup>2)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルコール系 (消毒用エタノール等) で清拭。</li> <li>・ 0.5%両性界面活性剤で清拭。</li> </ul>
トイレの便座 フラッシュバルブ 水道の蛇口 ドアノブ <sup>2)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルコール系 (消毒用エタノール等) で清拭。</li> </ul>
床 <sup>2)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 0.5%両性界面活性剤で清拭。</li> </ul>
天井や壁 <sup>3)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消毒は通常不要。</li> <li>・ 喀痰等の汚れが付着した場合には、0.1%次亜塩素酸ナトリウムで清拭。</li> </ul>
リネン類 <sup>2)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱水洗濯 (80℃・10分間等)。</li> <li>・ 0.05～0.1%次亜塩素酸ナトリウムに30分間浸漬。</li> </ul>
銅製小物 <sup>2)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱水 (80℃・10分間等)。</li> </ul>
手指 <sup>4)</sup>	消毒用エタノールを主成分とする速乾性消毒薬。 (p4を参照)
排泄物 (喀痰等) <sup>4)</sup>	焼却がよい。 消毒薬を使用するなら、喀痰の10倍以上の容量の1%次亜塩素酸ナトリウムに、30分間接触させる。

※1 濃度表示は、アルコール系はvol(v/v)%, その他はw/v%

※2 ウォッシャーディスインフェクター (Washer-Disinfector: WD) は、汚染した器材を「洗浄→すすぎ→熱水消毒→乾燥」まで自動で行う装置のことである。<sup>5)</sup>